7月31日号　第2637号
2003年(平成15年)
(昭和24年5月10日　第三種郵便物認可)
発行所　財団法人　海上保安協会
〒104-0045　東京都中央区築地５－３－１
電話　03－3542－3678～9
ＦＡＸ　03－3541－9085
E-mail:kaiho-shinbun@jcga.or.jp
(毎週木曜日発行)
購読料　月極610円　送料共

海上保安新聞

しなやかな発想で21世紀
日昇印刷株式会社
〒104-0043　東京都中央区湊１－14－14
TEL　03－3553－3161～4
FAX　03－3551－4898

海上保安庁人事異動

次長に金子氏

交通部長は小林氏

津野田氏勇退

海上保安庁は国土交通省の人事異動に伴い、7月18日付で一連の人事を発令した。津野田次長と野一色六管本部長が勇退。足利交通部長、与田総務部参事官が国交省に異動、後任の次長には金子海事局次長、交通部長に小林二管本部長、総務部参事官に島﨑政務課長が就任した。二管本部長に高尾二管次長、六管本部長には本田七管次長、二管次長に橋本五管海洋情報部長、七管次長に五十嵐国交省政策評価官が登用された。

辞職（次長）　津野田元直
次長（海事局次長）　金子賢太郎
国交省出向・国土交通政策研究所長（交通部長）　足利　香聖
交通部長（二本部長）　小林　堅吾
二本部長（二次長）　高尾　留雄
六本部長（七次長）　本田　隆文
辞職（六本部長）　野一色修平
国交省出向・政策統括官付政策評価官（総務部参事官）　与田　俊和
総務部参事官（政務課長）　島﨑　有平
政務課長（九州運輸局次長）　齋藤　芳夫
二次長（五海洋情報部長）　橋本　工
七次長（国交省政策統括官付政策評価官）　五十嵐一美
国交省出向・港湾局（主計課長）　牛島　清
主計課長（運輸施設整備事業団業務三部長）　江口　稔一
辞職・運輸施設整備事業団へ（交通部安全課長）　黒田　晃敏
交通部安全課長（航空局経理補給課長）　添田　慎二
国交省出向・総政局（国際・危機管理官）　後藤　靖子
国際・危機管理官（国交省広報課報道企画官）　加藤　隆司
国交省出向・大臣官房（政務課企画官）　田中　照久
政務課企画官（航空局総務課危機管理室長）　下野　元也
五海洋情報部長（稚内部長）　友澤　博
稚内部長（機動防除基地長）　濵田　仁司
機動防除基地長（羅臼署長）　上平　明
羅臼署長（釧路予備員）　佐藤　康男

金子次長

小林交通部長

高尾二本部長

本田六本部長

島﨑総務部参事官

地震

宮城へ毛布200枚搬送

本庁 二本部　災害対策本部を設置

7月26日午前零時13分ごろ、宮城県北部を震源とする地震（M５・６）の発生に伴い、海上保安庁と二管本部は同日午前零時20分、地震災害対策本部を設置。青森県から福島県までの太平洋側の港湾や石油基地、原発周辺の沿岸部の調査を行ったが異常は認められず、本庁28日正午、対策本部を対策室にした。

宮城県からの要請により、横浜保安部の災害対応型巡視船「いず」が被災者用毛布２００枚を石巻港まで輸送、陸上自衛隊が各地へ運んだ。

宮城県北部では26日に震度6の地震が3回も起き、27日には震度4の余震が4回。28日未明にも震度5の地震が続いた。

「いず」から毛布をトラックに積み込む（石巻港で）

シーサイドステージで演奏する海上保安庁音楽隊

第1回海フェスタKOBE

より地域密着の祭りへリニューアル

「輝く未来。神戸の海・港ー」をテーマに、第1回「海フェスタKOBE～海の祭典２００３～」が7月19日から26日まで、神戸港で開催された。

「海の祭典」は昭和61年から全国の主要港湾都市で開かれてきたが、平成8年に制定された「海の日」（7月20日）が祝日法の改正で、今年から7月の第3月曜日となったため内容をリニューアル、より地域に密着した「海フェスタ」となった。

23日には神戸市内のホテルで記念式典が開かれ、秋篠宮ご夫妻がご臨席。深谷憲一・海上保安庁長官も出席した。

神戸港では20日、巡視船艇や航空機が参加して総合展示訓練が繰り広げられ、公募の一般市民らが巡視船「せっつ」（神戸）と航路標識測定船「つしま」船上から訓練を見学した。測量船「昭洋」の一般公開も行われた。

海上保安庁音楽隊も海フェスタに参加。19日のオープニングステージ、20日のシーサイドステージで軽快な音楽を演奏した。

一日海上保安官らと青い羽根募金活動（神戸港で）

「やしま」とマレーシア

互いの船で研修

アジア海賊対策チャレンジ

「アジア海賊対策チャレンジ２０００」に基づき、マレーシアに派遣されたヘリコプター2機搭載型巡視船「やしま」とマレーシア海上警備艇に、相手国職員が相互乗船する体験的研修が7月11日から14日まで、3泊4日で行われた。海上保安庁でパトロール業務中の巡視船に他国の職員が乗船するのは初めて。

マレーシア側はセミナーにも参加した海上警察、税関職員ら5人。海上保安庁側は国際刑事課の中村博通・海賊対策官と短期国際航海研修生（平成14年度特修科修了）の2人。ペナン島からポートクラン港に至る海域で、海賊に対する意見・情報交換、操船方法、装置設備などについて研修した。

「やしま」では航海、機関、航空、通信の研修が行われ、ヘリにも搭乗した。マレーシア側はコーストガード機関の創設を控えており、「貴重な体験ができた」と評価している。秋には創設準備関係者が海上保安庁の関係施設を見学する計画も立てられている。

石原都知事、工作船を見学

保存場所には触れず

東京都の石原慎太郎知事が7月18日、お台場の船の科学館で一般公開されている北朝鮮の工作船を初めて見学した。海上保安庁を「忠勇無双」とたたえ、「北朝鮮になめられている」と感想を述べた。

石原知事は都議会の一般質問で、工作船の保存問題について「置くべきところは国会の庭でしょうな。もしそこがだめなら都庁で引き受けても結構」と述べ、注目されていたが、保存については触れなかった。

海上保安庁の横山鐵男警救監から説明を受け、約25分にわたり見学した。旧ソ連製の14・5ミリ対空機関銃が船体のどこにしまわれていたのかなど、工作船の偽装に興味を示していた。

◇　◇

工作船の見学者が公開から約2カ月で58万人を突破した。また会場に置かれた工作船の保存に充てる募金箱に寄せられた支援金は28日現在、約９５４万円。

潮流

▼東京都練馬区の「きたいち阿波踊り」を見に行った。開催回数がまだ少ないこともあって、お世辞にも「粒ぞろい」とは言えない。その中でも、笑顔が見える個人や連は、総じて上手だと感じた。笑顔で踊ることが身体を自由にするのか、自信と余裕が笑みを生ませるのか▼意識して腰を落とす時は別にして、腰の位置が高い人の方が美しい。自然体で安定感があり、ステップがスムーズで軽やかだ。マニュアル（?）を越えて、自在に自己表現する。大人たちの連に飛び込んだ（放り込まれた）子供たちはうまい。さすがに、同じリズムでスローな演技をするまでにはなっていないが、周囲に良い先輩はやはり必要なのだ▼チームプレーでは、前後だけではなく、左右の動きを入れている連が美しい。顔を向け合い、うなずき合って、一体感がある。観閲式及び総合訓練を思い出しながら、「海上保安庁と業務のあり方に、ヒントになるものがあるのでは?」と考えていた。危ない、危ない！　夏の行事を楽しむ時ぐらいは、「海上保安庁」を、忘れるようにしなくては。

週間海難情報

7月14日(月)～7月27日(日)

2週間で、海上保安庁が救助した船舶、人命は30隻、90人だった。

種類別	隻数
衝突	59
乗り揚げ	17
転覆	2
火災	1
爆発	0
浸水	5
機関故障	17
推進故障	5
舵故障	0
行方不明	0
その他	27
計	133